

企画展「敗戦後の岡山 画家・佐藤一章が描き残したスケッチ」 を開催します

敗戦後の岡山の街を水彩スケッチに描いた洋画家・佐藤一章(いっしょう)の作品のうち、岡山市立図書館に所蔵されている全13点を展示します。画家が同じ時期に新聞に連載したコラムの文を手掛かりに、スケッチにどんな思いが込められているのかを考えてみます。

1 日時

令和6年8月8日(木)～9月1日(日) 毎週月曜日休館(ただし8月12日(振替休日)は開館)
開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前 展示コーナー(北区二日市町) 入場無料

3 内容

・矢掛町出身の洋画家、佐藤一章(明治38年生～昭和35年没)は、東京美術学校卒業後、帝展で活躍しますが、昭和20年に岡山市へ疎開し、兵役中に終戦を迎えます。昭和23年には日展の岡山開催に尽力し、昭和25～30年には岡山大学の美術科教授に就任し後進を育てました。

・除隊後の彼が昭和20年秋に焼け跡が広がる岡山市内の各所で描いた水彩スケッチは、敗戦後の市街とそこで暮らす人々を活写しており、その時の写生ならではの臨場感を放っています。

・スケッチのいくつかは佐藤の短い文を添えて昭和20年11月に合同新聞(現在の山陽新聞)に連載されました。その中で彼は、人々が混乱と窮乏と虚無感の中で懸命に生きる様子を語っています。すさんだ人心への辛辣な言葉も時折述べますが、それが逆に、復興への強い思いをにじませています。

4 関連講座

令和6年8月11日(日) 14～16時 「佐藤一章の戦後のスケッチを読み解く」
会場:岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール 先着60名(申込不要) 聴講無料
講師:飯島章仁(当館学芸副専門監)

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・沖田 直通086-223-3373

おもな展示品

佐藤一章 水彩スケッチ「お城附近を望む」(岡山市立図書館蔵)



戦災の焼け跡が遠くまで広がる先に、岡山城の月見櫓が望めます。天守閣は空襲で焼け失せ、石垣だけが残っています。

佐藤一章 水彩スケッチ「ソバは実る 柳川附近」と、合同新聞のコラム(いずれも岡山市立図書館蔵)



柳川付近の市街地の焼け跡で食糧難から植えたソバが実っています。合同新聞(昭和20年11月19日付)のコラムには「…その蕾の色によさ、実に綺麗な。弱々しい中に生への力強さを感じる…」と記しています。

佐藤一章 水彩スケッチ「ジープ止る」と、合同新聞のコラム(いずれも岡山市立図書館蔵)



進駐軍のジープが描かれています。同様の主題のスケッチに添えた合同新聞(昭和20年11月20日付)のコラムには「…一斉に群がる男女大小の口(一字不鮮明) 如何にも物珍しさう 物欲しさうである…」と記しています。